

特集：SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する 教育システム

短期留学プログラムを通じた SDGs 包括的教育モデルの検討

田中 孝治^{*,**}, 北川 達也^{*,**}

A Comprehensive Model for Learning of SDGs through Short-Term Study Abroad Program

Koji TANAKA^{*,**}, Tatsuya KITAGAWA^{*,**}

1. はじめに

社会における持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) の需要が急速に高まっている。SDGs には、地球上に山積するさまざまな課題の解決が国際目標として掲げられおり、17 の目標と 169 のターゲットから構成される。SDGs の実施においては、国内での取り組みと国際協力の連環を認識すること (普遍性)、脆弱な立場の人々に焦点を当て誰一人取り残さないこと (包摂性)、あらゆるステークホルダーや一人ひとりが当事者として主体的に参加すること (参画型)、経済・社会・環境における課題に対する統合的解決の視点をもつこと (統合性)、取り組みに対して高い透明性を確保し、その評価を公表すること (透明性と説明責任) が主要原則として位置づけられている⁽¹⁾。

また、持続可能な開発のための教育は、ESD (Education for Sustainable Development) と称され、SDGs のすべてのゴールの実現の成功要因の一つに挙げられる⁽²⁾。こうした背景に、国内では、中央教育審議会の答申において、ESD が次期学習指導要領改訂の全体における基盤となる理念として位置づけられている⁽³⁾。このような流れを受け、大学機関においても、SDGs を達成するための ESD の推進が求められており、さまざま

な大学において多種多様な取り組みが行われている⁽⁴⁾。

こうした SDGs に関する教育研究は、個別のゴールに対して実施されることが多く、それぞれのゴールに関する学習目標を対象とした具体性の高い教育モデルが構築され、その教育実践と共に論じられている⁽⁵⁾⁽⁶⁾。一方で、自らの意思で取り組むべきゴールを探す SDGs に対する能動的な姿勢の育成 (参画型) を念頭においた全 17 ゴールを包括する抽象度の高い教育モデルの構成は、十分に検討されているとは言いがたい。

そこで本研究では、工業系大学において実施された発展途上国 (ベトナム) の現状視察 (包摂性) を通じてその国の抱える問題を認識する (普遍性) 短期派遣留学プログラムを対象に、その教育効果を評価する枠組みから包括的教育モデルの構成要素を検討する。

2. ベトナム短期派遣留学プログラム

ベトナム短期派遣留学プログラム (以下、プログラムと略す) は、2019 年 2 月 21 日から 2 月 28 日までの期間 (移動日を含む) に実施された。参加者は学生 10 名 (経営学分野 7 名, 情報工学分野 3 名, うち 1 年生 2 名, 2 年生 4 名, 3 年生 3 名) であった。これらの参加学生は、「各ゴールの理解を促進すること」や「自

* 金沢工業大学情報フロンティア学部 (College of Informatics and Human Communication, Kanazawa Institute of Technology)

** 金沢工業大学地方創生研究所 SDGs 推進センター (Institute for Regional Revitalization and Innovation, SDGs Promotion Center, Kanazawa Institute of Technology)

受付日: 2020 年 6 月 21 日; 再受付日: 2020 年 10 月 7 日; 採録日: 2020 年 12 月 2 日